

令和 7 年度 第 1 回 府中市保健計画・食育推進計画推進協議会

会議録

日時：令和 7 年 1 1 月 1 3 日（木）

午後 6 時 4 5 分～

場所：保健センター 1 階第 1・第 2 母子保健室

■出席者

No.	氏名	選出区分・選出団体
1	藤原 佳典	学識経験者・独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所副所長
2	日田 安寿美	学識経験者・東京農業大学
3	加藤 哲康	社会福祉・府中市社会福祉協議会常務理事（兼）事務局長
4	井手 徳彦	医療・府中市医師会
5	黒米 俊哉	医療・府中市歯科医師会
6	小澤 量	商工・むさし府中商工会議所
7	河内 雄一郎	マインズ農業協同組合
8	田邊 純子	運動・府中市立介護予防推進センター
9	安岡 圭子	行政・多摩府中保健所
10	山田 五月	行政・多摩府中保健所
11	梶原 かおる	公募委員・市民
12	平河 弘子	公募委員・市民

事務局：福祉保健部長 佐藤

福祉保健部次長 梶田

健康推進課長 若山

健康推進課長補佐 大塚

健康推進課成人保健係長 齊藤

保健師 古谷（健康推進課・成人保健係）

保健師 須貝（健康推進課・成人保健係）

保健師 佐藤（健康推進課・成人保健係）

歯科衛生士 山田（健康推進課・成人保健係）

栄養士 中鉢（健康推進課・成人保健係）

栄養士 松村（健康推進課・成人保健係）

■事務局

- ・開会宣言
- ・配布資料確認 ※配布資料は別添参照

1 挨拶（福祉保健部長）

2 委員紹介

- ・社会福祉法人 府中市社会福祉協議会 加藤委員
人事異動により、前任の深美委員より変更。
- ・マインズ農業協同組合 河内委員
人事異動により、前任の古正委員より変更。

■傍聴希望なし。

■これより、議事進行は会長となる。

3 議事

(1) 前回の会議録について

【事務局】

前回の会議録について、ご説明いたします。

資料2をご覧ください。こちらにつきましては、協議会終了後、委員の皆様にご確認いただき、修正点を反映したものになります。ご承認いただけましたら、所定の手続きの上、会議録の公開を予定しておりますので、よろしくご願ひいたします。なお、会議録の公開につきましては、ふるさと府中歴史館2階市政情報公開室、市内図書館、市ホームページ等で公開する予定です。会議録においては、発言者の氏名は記載せず、会長については「会長」と、それ以外の委員の方々については単に「委員」と表記させていただいておりますのでご承知おきください。

説明は以上となります。

【会長】

ご質問、ご意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、特に修正はないようですので事務局にて公開の手續きをお願いいたします。

続きまして、議事(2)ア・イの事業につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

(2) 令和6年度実施報告及び令和7年度計画・進捗状況について

ア 元気いっぱいサポート事業等

【事務局】

はい、会長。元気いっぱいサポート事業等について、ご説明いたします。**資料3-1**をご覧ください。

元気いっぱいサポート事業の令和6年度実績については、前回の協議会にて報告済みのため資料への記載のみとさせていただき、説明は割愛させていただきます。それでは、令和7年度計画について、ご説明いたします。

元気いっぱいサポーターリーダー養成講座は、地域のつながりと健康づくりや府中市の健康づくり等を学ぶ5日間の講座を通して、元気いっぱいサポーターリーダーとして活動するために必要な基礎知識を学ぶ講座です。講座の内容には、本協議会の会長である藤原先生の地域のつながりと健康づくりについての講話をはじめ、市の健康づくりや

食育推進について、ノルディック・ウォーク、ゲートキーパー研修を実施しました。本養成講座は、定員30人のところ、20人の申し込みがあり、19名が受講終了しています。

なお、受講者のうち12人は、9月10月で実施される食育推進リーダー養成講座を受講し、修了しました。

サポーターリーダー会は、元気いっぱいサポーターリーダーを対象に、健康づくりにつなげてもらえるように講座を実施し、普及啓発を行うものです。令和7年度は12月4日に実施を予定しており、歯と口の健康をテーマに実施予定です。

サポーター通信の発送については、10月に活動状況等のアンケートを実施しました。結果については集計中となります。

3ページ目をご覧ください。表の一番上の項目の段が抜けていますが、こちらも左から取組名、内容、令和7年度計画、令和6年度実績を記載しています。

自主グループ活動では、各グループで活動内容を検討し、実施しております。「ノルディックでつながる会」では、定例会及び自主ウォークを実施し、既存のウォーキングマップの見直し・更新を行います。また、今後の新規マップ作成に向けたコース検討をしています。「おはなしブーメラン」では、定例会及び勉強会を実施し、市内保育所や市内デイサービスで読み聞かせ、SOSの出し方に関する教育の読み聞かせを継続して実施していきます。「食育推進リーダー パブリカ」については、定例会及び試作調理実習の実施、いきいきプラザでの楽しく身につく栄養料理講座の講師や高齢者ふれあい食堂の実施等を予定しています。市としましては、グループの意向を確認しながら活動が活性化するように引き続き支援していきます。

最後に健康教育事業についてです。令和6年度は、「骨」をテーマとした健康教育講演会を10月10日（木）に実施しました。歯科・保健・栄養の専門家を招き、それぞれの視点から会場にてご講演いただき、期間限定で後日配信を行いました。会場では、延べ257人の参加、後日配信では再生回数213回となりました。今年度は、「3講演続いたため講演時間が長い」などの昨年度のアンケート内容をふまえ、11月4日、5日の2日間に分けて実施しました。今年度は健康をテーマに各専門分野の講師に会場にて講演いただき、昨年度同様に講演内容を収録し、後日配信として、11月19日から12月2日までの期間で配信を行います。説明は以上です。

イ 食育推進事業について

【事務局】

食育推進事業について、ご説明いたします。[資料3-2](#)をご覧ください。

食育推進事業につきましては、1ページ目上段に【目的】を記載しております。食に関する正しい知識を身につけ、生活習慣病の予防や健康増進を図ること、食文化への理解を深めることなど、個人や関係機関、企業等との連携・協働により、地域ぐるみでの健康づくりを推進していくこととしております。

令和6年度実績につきましては、資料に記載のとおりですので、主に令和7年度の計画及び進捗状況につきまして、取組毎にご説明いたします。

引き続き1ページの表をご覧ください。

市では、地域における食育推進の担い手となる「食育推進リーダー」を育成しております。食育推進リーダー養成講座につきましては、2年に1回の開催とし、養成講座を実施した翌年度は、食育推進リーダーの皆さんとともに、地域で食育を推進していく啓

発活動に努める年という2年のサイクルで実施しております。

そのサイクルにより、令和6年度につきましては、養成講座は実施しておりませんが、令和7年度につきましては、5日間の連続講座をすべて終了しました。

今年度は17人の受講により、16人の方が修了いたしました。受講者の中には、すでに地域活動をされている方や地域のために自分にできることをやっていきたい、生きる上で食の大切さを実感し、地域に発信していきたい等、自身の学びだけでなく、地域へ発信していくことに意欲的な方々が多い印象を受けました。

また、養成講座の中での新たなカリキュラムとして、「市民協働」の概念をお伝えしていくことを目的に、市民活動センター プラッツの職員より、「市民協働」とはどのようなことなのか、新たなグループを立ち上げるのであれば、そのお手伝いができること、市民活動センター プラッツに団体登録してもらえれば、団体間の連携支援も可能であり、活動の幅を広げることができることについて具体的な事例をあげて説明いただき、今後の活動スタイルについて考える機会を持つことができました。

養成講座修了者については、まずは個人で活動したい方、食育推進リーダー パプリカに入会する方等、活動の形態は様々ですが、市の食育推進の担い手として活動いただけるよう、活動支援を実施していきたいと考えております。

続きまして、1ページ目の表下段をご確認ください。食育推進リーダー養成講座の修了者で構成された自主グループ「食育推進リーダー パプリカ」の活動支援につきましてご説明いたします。

令和6年度につきましては、例年通り、月1回実施している定例会での、市との協働事業の打合せに加え、自主グループ活動として、高齢者の会食や会食を通じた交流の場を確保する「ふれあい食堂」の運営開始に伴い、衛生管理に関する研修会を実施いたしました。今年度も継続して食堂の運営を実施されていることに加え、市の事業においては、例年通り、講座の運営補助、レシピ考案等にてご協力いただいております。

2ページ目につきましては、記載のとおりとなります。表上段「食べて発見！五ツ星お米マイスターに聞くお米の魅力」では、本協議会の小澤委員に講師をさせていただき、お米の洗い方から6種類のごはんの食べ比べまでを体験する充実したプログラムを実施することができました。参加者は普段何気なく行っているお米の洗い方について、正しい方法やその意味を学び、6種類の異なる銘柄のごはんを実際に食べ比べることで、味・香り・食感の違いを体感し、お米の奥深さと魅力を再認識する機会となりました。今後の実施についても検討してまいりたいと思います。

3ページ目をご覧ください。

今年度の新たな取組として、表の3つ目「食生活改善普及運動」との一環として、本協議会の横堀委員のご所属であるセブーンイレブン・ジャパン様よりご提案いただき、都立農業高校様と市、3者の連携により、野菜の摂取に関する啓発POPを作成し、市内セブーンイレブン40店舗にて掲出させていただくことができました。

啓発POPの作成にあたり、セブーンイレブン・ジャパン様より農業高校にて出前授業を実施し、セブーンイレブン・ジャパンの取組と市の食における課題の1つである「野菜の摂取量不足」についてお伝えし、野菜の摂取量を増やすことを目的としたPOPの作成に取り組んでいただきました。学生さんの豊かな発想により34種類のデザイ

ンが完成し、市民に身近なコンビニエンスストアにて啓発することができました。

3 ページ目の下から2つ目、「農業まつり」をご覧ください。今年度は、今週末に開催されますが、庁内栄養士連絡会として、出展を予定しております。今年度の庁内栄養士連絡会の活動テーマである「和食の推進」を目的に、「お箸チャレンジ」と題して、大人の方は小豆を、お子さんはぼんてんを、お箸でつかみ、20秒間でどれだけ別のお椀に移せるかを競うゲームの実施を予定しております。当日は食育推進リーダーパブリカの皆さんにもご協力いただき、ゲーム実施後に、お箸の持ち方やマナーに関する啓発資料を配布しながら、お声かけしていただく予定としています。

また、最下段に記載しております「消費生活展」につきましては、令和6年度と同様に、野菜の摂取量増加と地産地消の推進を目的に、野菜の推定摂取量を測定できるベジチェックの実施を予定しております。今年度の養成講座を修了した食育推進リーダー6人の方と一緒に活動させていただく予定です。

4 ページにつきましては、記載のとおりとなっております。

今後も各機関にご協力いただきながら、食育に関する情報を広く発信し、啓発に努めていきたいと考えております。説明は以上です。

【会長】

ありがとうございます。委員の皆様をはじめ、様々な地域の方々との連携が進んでおり、非常に望ましいことかと思えます。具体的には小澤委員がお米の事でご支援いただいています。何かご感想などあればいただきたいです。

【委員】

若い方たちにいろいろなお米を食べ比べてもらうことはなかなかできないので、食べ比べができたことが良かったと思います。各家庭の環境で親やおじいちゃん、おばあちゃんから習うことや自分でネット等で調べて身につけたことは、理論的背景がなく、ただ覚えているということが多くあります。お米の状態等を含めて、この場合にはこういう風にと理由付けしながら話せたのが良かったと思います。今、流通も複雑になり、目の前のお米がどういうふうに使われて、どういう精米で目の前にあるのかということを確認することはほとんどないと思いますが、それによって扱いは変わってきます。その辺が普段説明されないので、講座にて説明できたことがよかったです。また、みんなでわいわい楽しく食べることができたので良かったです。

【会長】

他にもセブン-イレブンさんからご提案いただいたということで。セブン-イレブンさんでは、他の店舗やチェーンでも類似のことをやっているような先行例も沢山もっていらっしゃる中での提案かなと思います。今後も進めていただければと思います。マインズ農業協同組合さんもいろんな事例をお持ちかと思いますが、何かご意見等がありませんでしょうか。

【委員】

お米に関して話がありましたが、マインズ農業協同組合では、青壮年部という男性の組織で、府中西区に関して5年生対象にお米の田植えから稲刈りを食育としてやっています。

私が前に所属していた課に関しては、お米の等級検査として府中市の一部の農家さんのお米を検査して、等級を判断し、そこから府中市の学校給食に一部販売や市内のお米屋さんへ販売しています。その際は府中のお米を使っていると宣伝しています。あとは、マインズ農業協同組合には、農協がない空白行政区からお声がかかるので府中市のお米のことや東京でもお米作っているということを出前授業等にて話をしています。

【会長】

非常に心強い情報と手段をお持ちのようですので、またこの協議会でご意見いただければと思います。市民代表の委員の皆様からの感想やご意見等ございますでしょうか。

【委員】

マインズショップの西府と多磨にレシピを置かせてもらっています。先日、都市農業の講演会へ行き、地産地消が大事であり、頑張っていたきたいと感じました。それから、自治会との連携で災害時のポリ袋クッキングの啓発をしています。11月23日の防災訓練にて災害時に自分で身を守るための啓発として、避難所に行けない人たちに私たちが考案した野菜を使ったレシピを啓発しています。このレシピは、健康推進課と一緒に作成しています。そういう啓発が広まればよいと思っています。

【委員】

元気いっぱいサポート事業の活動の中でおはなしブーメランが保育所やデイサービスに行っているとあります。今後、保育所が増えたりデイサービスが増えたりと難しいところもあると思いますが、いろいろなところで活動していただけたらよいと思います。広がりを目指しています。

【会長】

続きまして、ウ・エ・オの事業につきまして、事務局よりご説明をお願いします。

ウ 各種健（検）診について

【事務局】

はい、会長。成人・若年層健康診査、がん検診事業、歯科保健事業について説明いたします。[資料3-3](#)の1ページ目をご覧ください。

本市の各種健康診査は、高齢者の医療の確保に関する法律、健康増進法に基づき、生活の質の維持・向上を目的として生活習慣病に着目し、平成20年より市内約90か所の協力医療機関にて例年7月から9月にかけて実施しております。令和6年度は、第4期特定健診・特定保健指導の見直しにより、検査項目や質問票の一部が変更となりました。受診率については、各種健診で増加傾向にあります。コロナ禍以前の受診率には戻っていないため、今後も受診率の向上が課題ととらえております。受診率向上にむけた広報活動として、FC東京との協働事業にて受診勧奨動画やポスターの作成を行っており、ポスターについては、健診実施期間中は協力医療機関にて掲示し、受診勧奨動画については、駅前の大型ビジョンや市のホームページ内に掲載しています。令和7年度については、例年どおり7月から9月にかけて実施しており、結果については現在集計中となっております。また、検査項目に慢性腎臓病の早期発見、治療につなげることを目的に腎臓の機能を評価す

る項目として、eGFR（推算糸球体濾過量）、尿潜血を追加しております。

脳血管疾患、心疾患、がんなどの生活習慣病は、初期には自覚症状がほとんどないため、早期発見、治療につながるよう若年世代から自身の健康に関心を持ち、健診を定期的に受診するよう啓発していく必要があると考えます。今後も市民が安心して受診できる環境を整え、市民の健康維持・増進につながるよう協力医療機関と連携しながら実施してまいります。

続いて2の歯科保健事業についてご説明いたします。資料の2ページをご覧ください。成人歯科健康診査事業は、平成元年より「生涯にわたる歯と口の健康保持・増進及び8020の実現」を目指すとともに、かかりつけ歯科医の定着の推進のために市内約100か所の協力歯科医療機関で実施しているものです。期間は9月から11月の3か月間です。

対象者についてですが、受診したことがない市民や、歯や口の健康への関心が低い市民が、かかりつけ歯科医を持つきっかけとなるよう対象の方全員に受診券を送付しました。

(2)(3)については、それぞれ健康増進法対象、後期高齢者医療制度対象の再掲になります。令和7年度につきましては、実施期間・対象者ともに令和6年度と同規模で実施いたします。定期的な歯科健診の重要性を改めて啓発し、引き続き市民の口の健康に貢献できる成人歯科健康診査を目指して実施していきます。

続いて、府中市がん検診事業についてご説明いたします。資料は4ページ目をご覧ください。本市のがん検診は、健康増進法及び国・都の指針に基づく検診として、胃・肺・大腸・乳・子宮頸がんの5つのがん検診を実施しております。令和6年度については、例年どおり前期は6月から9月、後期は10月から翌年1月にかけて実施しました。令和6年度の変更点としては、子宮頸がん検診については、39歳までだった受診勧奨者の対象を41歳・43歳・45歳まで広げました。また、受診率及び市民の利便性向上に向けて、がん検診の申し込みと日時予約にオンラインシステムを導入しました。申込状況及び受診状況については、令和5年度と比較すると全てのがん検診で増加傾向です。令和7年度については、実施時期は同じですが、乳がん検診、大腸がん検診の実施について、実施場所を保健センターから個別医療機関へ移行しております。また、大腸がんの申込勧奨対象を40～59歳の奇数年齢の男性から、40～69歳の国民健康保険加入者に変更しております。令和7年度のがん検診は現在実施中です。

がんは早期のものは無症状であることが多く、ある程度がんが進行した際に症状が出現することがあります。がん検診を受けることは、がんを無症状のうちに早期発見・早期治療し、がんで亡くなることを防ぐことにつながります。引き続きがん検診の周知方法や受診しやすい環境等を工夫し、受診率の向上に努めてまいります。

エ 自殺対策事業について

自殺対策事業について報告いたします。[資料3-4](#)の1ページ目をご覧ください。資料3-4では、自殺対策事業における令和6年度実施報告及び令和7年度計画について説明させていただきます。お配りした資料に赤字で記載してある内容が各年度、重点的に取り組み、拡大した内容になります。

まず「1 令和6年度実施報告」について説明いたします。若年層向けの取組として毎年実施している“教職員向けゲートキーパー研修”を令和6年度も実施し、市内小中学校の教員や相談関係部署の職員等が71名受講しました。また、コロナ禍のため令和3年度

より中止していた”市職員向けゲートキーパー研修”を実施し、講義とグループワークを通して、知識や学びを得られるようにしました。令和5年度の受講者が45名であったのに対し、令和6年度は53名が受講し、庁内における自殺対策への認知度やニーズの高まりが感じられました。

庁内外の連携強化を目的に、定例の自殺対策推進会議、自殺対策関係機関連絡会等の会議を実施いたしました。自殺対策推進会議では、庁内と府中市社会福祉協議会、多摩府中保健所の職員に加えて、東京消防庁府中消防署からもご出席いただき、情報交換を通して更なる連携強化を図りました。自殺対策関係機関連絡会では、各課で把握された事例の共有を行い、全体の事例件数は103件、既遂事例3事例、新規未遂事例が26事例となりました。この背景には、庁内で自殺対策の取組が浸透してきていることが考えられ、困難事例も多い中、各課が情報共有や連携を図りながら対応している状況が伺えました。一方で、厚生労働省の発表によると府中市内の自殺者数は、45名で令和5年からは増加となっています。

SOS の出し方に関する教育では、これまでと同じく府中市立浅間中学校、府中市立第三中学校に加え、新たに府中市立第七小学校で実施しました。府中市立第七小学校においての読み聞かせは、自主グループおはなしブーメランに協力いただき実施しました。

続きまして、「2 令和7年度計画」について説明いたします。自殺対策関係機関連絡会は今年度11月10日に実施しており、現在記録等取りまとめ中となります。教職員向けゲートキーパー研修につきましては6月10日に実施しており、66名の参加がありました。市職員向けゲートキーパー研修は12月に実施する予定です。また、令和4年以降、全国的に子どもの自殺者数が高止まりしており、令和6年1月に策定した第2次府中市自殺総合対策計画においても重点施策となっている「子ども」の支援者及び専門職等を対象としたゲートキーパー研修の令和8年度実施を目指し検討予定です。令和8年度の実施に向け、令和7年度は研修の内容や対象等について、関係課にヒアリングしながら検討を行います。また、中学生に向けた「SOS の出し方に関する教育」につきましては、令和7年度も3校で実施する予定です。府中市立第七小学校においては実施済み、府中市立浅間中学校、府中市立第三中学校につきましては実施に向けて調整中です。

若者に向けた支援の推進については、市内大学等との連携を目指し、今年度市内大学へヒアリングを検討中となります。

説明は以上です。

オ 令和6年度新規事業について

令和6年度事業について報告いたします。[資料3-5](#)をご覧ください。

70日間チャレンジウォーキング事業においては、「実地イベント」「ウォーキングアプリでのウォークラリー」「健康ポイントプログラム」の3つのイベントを実施しました。「実地イベント」は、令和6年11月9日（土）に府中公園にて開催し、315人の参加がありました。「ウォーキングアプリでのウォークラリー」は、実施期間中の歩数を競い合い、高得点者・参加者等達成条件に応じた景品を抽選で贈呈するイベントです。実施期間は令和6年10月1日（火）から12月9日（月）で、1,619人の参加がありました。「健康ポイントプログラム」は、実施期間内にポイントを獲得し、条件達成した方へ

抽選で景品を贈呈するイベントです。令和6年10月1日(火)から令和7年2月28日(金)の期間に行われ、1,188人の参加がありました。なお、70日間チャレンジウォーキング事業は令和6年度で終了となる事業となります。

熱中症対策推進事業は、「熱中症による死亡事故などを予防」、「市民ひとり一人が熱中症について正しい知識を持って予防を心がけ、熱中症になった時に適切な対処を行うことができるようにする」ことを目標として取組みを行っています。令和6年度は庁内の連携体制強化のため、熱中症対策推進委員会を2回開催し、関係課22課で情報の共有等を行いました。クーリングシェルターは公共施設34、民間施設31、合計65施設を指定し、市民が外出時に一時的に暑さを避けて休息を取ることができる環境を整えました。民間施設には、日本郵便や株式会社ウエルシア、市内の薬局等にご協力いただきました。また、HPや広報、メール配信サービス、府中市公式SNSにおいて、随時熱中症予防のための普及啓発を行いました。イベントにつきましては、フォーリス1階の光と風の広場において、気象予報士を講師としてお招きし、熱中症対策予防セミナーを実施しました。また、環境保全活動センター主催の打ち水のイベントや、むさし府中商工会議所主催の商工まつりにも参加しました。来場者に対して、広く啓発活動を実施することができました。令和7年度も、6年度と同規模で実施し、新たに府中市クールシェアスポットの指定、郵便局のポスト・四輪車・二輪車へ啓発ステッカーの貼付をご協力いただきました。

心不全予防啓発事業は、循環器病の予防や正しい地域の普及と心不全リスクの早期発見、早期治療を目的に75歳の方を対象として、市内協力医療機関にて令和6年度より心不全予防検診を開始しました。検査方法は、採血を行い、心臓への負荷について調べることができるNT-proBNPの数値にて結果を判定します。令和6年度の受診状況としては、発券対象者3,084人のうち、1,449人が受診され、受診率は約47%でした。加齢とともに循環器系の疾患の患者数は増加していくため、早期発見が重要と考えております。令和7年度につきましても令和6年度と同規模で実施中となります。

「がん患者へのアピアランスケア支援事業助成制度」は、がん治療に伴う外見の変化に悩む患者の方々を支援することを目的としています。具体的には、医療用ウィッグや補正下着などの補正具の購入・レンタル費用の一部を助成する制度です。対象となるのは、がん治療により補正具を購入、またはレンタル契約をされた市民の方で、令和6年4月1日以降に購入または契約された次の品目が対象です。頭部では、医療用ウィッグや毛付き帽子、胸部では、人工乳房や補正下着などが含まれます。

申請は、購入または契約の翌日から1年以内に、必要書類を揃えて保健センター3階の成人保健係窓口にて行っていただきます。助成額は、1回あたり上限2万円まで、1人2回までの申請が可能です。令和6年度は、庁内の関係部署や関係機関にチラシを配布するなど、周知活動も行いました。その結果、申請者数は123人にのぼり、うち20人が2回目の申請を行っています。内訳としては、胸部に関する申請が26件、頭部に関する申請が97件でした。令和7年度も同様の規模で実施をしており、現時点で申請が100件を超え、令和6年度の申請件数を超える見込みとなっています。

健康危機管理事業では、「地域保健対策の推進に向けて、保健師による保健活動の円滑な実施等に関する事項について組織横断的に協議する」ための会議である、保健活動等推進会議を6月と3月の2回開催しました。人材育成・災害時保健活動・感染症対策の各部会での活動も実施し、活動内容の検討等行いました。また、各部会主催の研修を合計6回開催し、多くの庁内外保健師や関係者の参加がありました。令和7年度においても6

年度と同規模で実施中となります。

説明は以上です。

【会長】ウ・エ・オの事業につきまして、ご質問、ご意見いかがでしょうか。

【委員】

特定健診ですが、コロナで健診受診率が落ち、ようやく回復傾向ですが、もとは戻っていないと思います。もともと府中市は健診受診率は良かったので、他市と比べると良いと思いますが、なるべく改善した方がよいと思います。Jリーグの方などの助けを借りることも有効だと思いますので、続けてほしいと思います。腎臓の数値に関しては、市と東京都で協力していただき、項目を増やして、なるべく腎臓疾患を拾い上げられるようにしています。医師会でもCKDとして腎臓疾患を拾い上げて、専門医療機関につなげられるような取り組みを始めたところですが、府中市に感謝しています。心不全予防検診は、75歳を対象に、ほぼ府中市だけがやっている取組です。思ったよりも心臓の数値が高い人が多く出てきています。市内には、榊原記念病院という循環器専門の病院がありますので、そこと連携して何らかの形で結果を残せるようにできたらと思います。熱中症については、クーリングシェルターはとても大事なものだと思います。がんアピアランスケアについては、資料を見てやっていることを知りました。若い人だとネットで申し込めると良いと思いました。乳腺のがんは、若年の40代30代もいて、悩んでいる方もいます。おそらく、興味のある人はネット調べていると思いますし、病院とかでもウィッグや補正用具は、案内があるはずですが、医療機関の受診に都心の方に行くと府中市と関係なくなってしまうので、こういうサービスをアピールできるとよいと思います。

【事務局】

がんアピアランスケアですが、申請者はがんを患われている方ということで窓口に来ることが大変な方がいらっしゃることは、承知しています。補助金申請の手続きをネットでの対応ができるかどうかは、全庁的な問題もあります。府中市はDX化を進めているところではありますので、勉強させていただきながら検討していきます。ただ、郵送での申請は受けていますので、必ずしも窓口に来なければならないというものではございません。いずれにせよがん患者の方に優しい受付体制を進めていきたいと思っています。

【委員】

健診ですが、医科は7～9月3か月で暑い中で患者さんが来にくい時期ですが、令和4・5・6年度、受診率が40%後半とちょっとずつ増えている状況です。後期高齢者の受診率も60%前半で少しずつ増えているような感じに見えます。歯科は、9～11月で涼しくなり受診しやすい環境であるが、令和4年度15%、令和5年度13.5%、令和6年度12.7%とちょっとずつ減っている傾向があります。全国平均の7～8%から比べると他より多いと思います。医科に追いつくのは無理だと思いますが、少しでも受診率を市民の方のために上げてもらうことはできないでしょうか。例えば、期間を3か月から4か月等、市で考えていることがあれば教えてほしいです。

【事務局】

受信者数は減っている状況ですが、市民の方からの問い合わせの中で「自身で受けているところがあるので市の歯科健診はいかなくていいか」という問い合わせがここ数年増えていると感じています。職場の近くなど協力医療機関外でかかりつけ歯科をもち、定期的に受診している方が少しずつ増えてきていると感じています。成人歯科健康診査は市でやっている事業ですので市民皆様に利用していただきたいと思いますので、健診期間については検討していきます。

【委員】

資料3-3 がん検診では、オンラインというのは、申込みをオンラインに変更されて、受診率が上がったという説明でよいでしょうか。素晴らしい取組だと思っています。国が職場や人間ドッグのデータ等、市町村が知りえない情報を市町村が把握する仕組みを提案されていたと思うのですが、府中市で何か動きがありますでしょうか。

もう1点は、自殺対策です。府中市は、庁内庁外と関係機関との会議もそうですし、ゲートキーパー養成講座の活動量が多く、頭が下がる思いでございます。すごくよく取り組みいただいています。私どもも精神の患者さんの対応を課で担っていますが、保健所の相談に来られる方は、お子さんも含め精神疾患をお持ちで、家庭でも複合的な課題をお持ちの方がいらして、ポピュレーションアプローチのところは市町村の強みと思っています。2ページのSOSの出し方に関する教育の充実という府中市立の2つの中学校と小学校での教育は、すごくよい取り組みだと思います。これは、校長会で提案して、手を挙げられた学校へ教育を実施されるという理解でよろしいでしょうか。良い取組のため幅広く取り組みされると良いと思いました。

【事務局】

がん検診については、オンラインの申込み及び受診予約の申込みをWEBでできるようになったことから、当日の急なキャンセルが少なくなったことで、受診率が向上したと考えています。国のほうからもすべての市民のがん検診の受診状況を市が把握し、受診機会のない方に対して、受診の機会を設けていくという説明を聞いています。それにつきましては、実施方法や実施開始時期について、国や都の動向や近隣市の状況を勉強してまいりますので、今後報告させていただきます。

自殺対策につきまして、SOSの出し方に関する教育を実施してきています。当初は、校長会で手上げしていただいた学校に継続して実施してきたというところです。昨年度、小学校の実施ができました。指導室を通して希望を聞いていただきました。保健師講話にプラスして、読み聞かせボランティアと半々程度で実施しています。全校は、できていないところではございますが、どの学校でもSOSの出し方に関する教室は実施していると指導室より伺っています。

【会長】

SOS 教育に関して補足させていただきます。希少なエビデンスも触れているものです。一番の目的は、地元でボランティアさんが関わることで、信頼できる大人を5人見つけよ

うというのが最初のゴールです。その時だけの交流ではなく、近所で会っても声を掛けられる関係性というのが最終のゴールです。こういったものを普及展開しています。学校ボランティアの研究をしているが校長会や指導室から紹介してもらうのも重要ですが、本来なら新しく赴任した先で今まで経験された先生や校長先生が広めていくのがいいと思います。コロナが間に入ったということもありますが、一番期待したい先生方の口コミが広がっていないのが残念なところですが、教職員向けのゲートキーパー研修をされているので、その中の最後の数分でも SOS 教育はどういうことをやっている等の紹介があれば敷居が低く感じてもらえると思います。ぜひ、ご検討ください。

【会長】続きまして、(3) 令和7年度「健康と安全・安心な暮らし」に関する市民アンケート調査の実施について(速報)、事務局よりご説明をお願いします。

(3) 令和7年度「健康と安全・安心な暮らし」に関する市民アンケート調査の実施について(速報)

【事務局】

令和7年度「健康と安全・安心な暮らし」に関する市民アンケート調査の実施について(速報)についてご説明いたします。[資料4-1](#)及び[資料4-2](#)をご覧ください。

資料4-1最初のページでございます。こちらで、調査概要をご説明しております。まず調査方法として、郵送により調査票を配布し、調査票に記載されているQRコード、URLからスマートフォン等でアクセスしていただき、オンラインフォームから回答いただく方法と、郵送した調査票に直に記入いただきましてそれを郵送で送り返していただくという2つの方法でアンケートを回収いたしました。実施期間は、今年の8月18日から9月18日まで実施しました。対象者は、無作為に抽出した18歳以上の市民、3,000名となっております。そのうち1,407件回答があり、回答率として、46.9%ございました。具体的な回答状況ですが、回答方法別の集計として、オンラインフォームから回答いただいた方は32.3%、紙の調査票を記入いただいた方は67.7%ということで、紙の調査票を使っていた方が約3分の2程度となります。次に年齢3階層別の回答者数の集計です。若年者の回答が4.6%、中年者の回答が50.6%、高齢者の回答が40.8%ということで、中高年の回答が大半を占めていました。そのため年代によって回答傾向に差異があるような設問の場合は単純集計の回答の傾向というのも中高年の回答の傾向に寄っていることが想定されます。では次のページに進みます。調査結果の概要です。このアンケート調査結果の全体の傾向を大まかに把握するために各設問の単純集計結果を表すコメントをこちらで取りまとめております。こちらについて、何回かに分けてご説明を申し上げます。その都度ご質問等いただければと思います。まず、見出し1健康状態について、問1でございます。「まあ健康なほうだ」と回答いただいた方は68.4%で、全体の3分の2以上を占めております。「とても健康だ」と合わせると、76.2%で回答者の多くが自分の健康状態を肯定的に捉えているということがわかりました。つづきまして、問4です。小問1「明るく楽しい気分で過ごした・落ち着いたリラックスした気分で過ごした」では共に半数以上の方が、半分以上の期間そうでしたというご回答をいただきました。一方で、「ぐっすりと休めて気持ち良く寝られたとか日常生活の中に興味があることがたくさんあった」という小問では肯定的な回答が半数を下回り、「全くない」「ほんのたまに」といったようなネガティブな回答の割合も他の小問と比べて高いという状況でした。続きまして、見出しの2番、健康診査・各種がん検診についてです。まず調査票をご覧くださいますと、最初に定期的に健康診査・各種がん検診などを受けていますかということをご質問しております。受けていない方が問7の1を回答いただき、受けている方が問7の2を回答いた

だくものとなり、どちらの設問を回答したかによって、受診率を算出いたしました。定期的に健康診査・各種がん検診等を受けていますと回答いただいた方が83.5%を占めました。なぜ、受診したのかというところを問7の2でみていきます。問7の2では職場・学校で受けられたという方が46.3%と最も多く、次いで歯科の受診の通知がきたというところが43.6%と続きました。職場とか行政からの案内といったような制度的な打診が個人的な動機、年齢的に必要性を感じたとか、病気を早期に見つけられたりとか、よりも上回って大きなきっかけとなっていることが分かりました。まず、この健康状態について、健康診査・各種がん検診については以上でございます。

【事務局】

3番、体を動かすところについてです。問9で「1回30分以上軽く汗をかく運動を実施していますか」ということをお尋ねしています。「運動していない」に回答が31.8%で最多となりました。問8でより軽い運動の有無をお尋ねしていますが、それと比べて未実施者の割合が上がっており、運動の強度が上がると実践する人がさらに減るということが分かりました。運動習慣がある方の中では週に2～3回運動していますという方が17.7%ということで最も多くなりました。次に4食事についてです。問12で「普段朝食を食べますか」ということをお尋ねしております。「ほとんど毎日食べる」という回答が72.6%ございまして、朝食を習慣的に食べている市民が多いことが分かりました。一方で、「ほとんど食べない」という回答が、7.2%ございまして、これを始めとして、朝食を毎日食べない方も16.2%存在していました。次に問15です。こちらで野菜の摂取量をお尋ねしております。朝食・昼食・夕食と時間が進むにつれて摂取量が増える傾向にございました。朝食では4割超の方が「ほとんど食べない」と回答をいただいておりますが、夕食では小鉢1皿程度が34.6%で最多となりまして、多くの方が、夕食で野菜を重点的に摂取しているということが分かりました。次に5口の健康についてです。問22では「歯や歯肉などの口の健康を保つためにご自分でどのようなことに取り組んでいますか」ということをお尋ねしております。こちら、「デンタルフロスや歯間ブラシを使用している」という回答が55.4%で最多でございまして、「かかりつけ医で定期健診や歯石除去を受けている」という回答が54.4%で続きました。他の選択肢も含めて、多くの方がセルフケアであるとか専門家によるケアをしているという一方で、特に何もしておりませんという回答も11.1%ありました。続きまして6たばこ・飲酒についてです。問23で「たばこ吸ったことがありますか」ということをお尋ねしています。全く吸ったことがないという非喫煙者の方が51.5%でした。喫煙経験者も47%おりますが、現在吸っているというのは14.4%でありまして、残りの方、喫煙を辞めた人も多いということが分かりました。問24で「週何日くらいお酒を飲みますか」ということをお尋ねしました。こちら「元々飲まない」「飲んだことがない」「やめた」という回答、そして「ほとんど飲まない」という回答を合わせますと、48.2%ということで半分くらいでございます。その一方で、飲酒習慣のある方で最も多かったのは「毎日飲む」という方15.2%ございまして、飲酒習慣の二極化というところが進んでいる様子が伺えました。

【事務局】

7社会参加についてです。問25で友人やご近所の方、別居のご家族や親せきとの付き合いの状況をお尋ねしております。「友人や近所の方と会ったり、電話で話すことはどのくらいありますか」ということで週に2回以上と回答いただいた方は、31.2%と最も多くなりました。一方で小問2「別居のご家族や親せきと会ったり電話で話すことはどれくらいありますか」というところでは、友人関係よりも低い傾向がみられました。また、「月に1回より少ない」「全くない」というふうに回答した層もどちらも24%ほど存在しておりまして、社会的なつながりが希薄な人々というのも存在することが分かりました。次に問

28、30です。まず30について説明します。30では「どんなところを居場所と感じますか」ということをお尋ねしております。こちら、「自宅」が92.5%ということで大半を占めました。次いで「職場」33.7%、それから「趣味・学習・教養・スポーツ関係」26.4%ということでした。この設問と合わせて問28を見ていきますと、いずれの項目においても、問28では、いずれの項目においても「参加しなかった」「機会があれば参加したい」「参加するつもりはない」「できない」という選択肢を合わせた割合が7割を超えまして、参加率が低いということが分かりました。自宅と職場が主な居場所になっていて、それ以上の社会参加をしている人は少ないということが分かりました。続きまして問31でございます。お住まいの地域から孤立していると感じることがどのくらいありますかということをお尋ねしております。「あまりない」45.4%、「ほとんどない」32.7%と合わせた8割近くの方が地域とのつながりを感じていらっしゃいます。一方で、「よくある」「たまにある」と孤立感を抱く方も19.6%ということで2割存在しております。続きまして、見出し8健康危機管理についてです。問33で、「感染症流行時にあなたが欲しいと感じる情報をお答えください」ということをお尋ねしております。こちら、「医療機関への受診方法」が72.7%で最も多くなりました。次いで、「インフルエンザや新型コロナなどの流行情報」55.2%、「体調を相談できる窓口」53.9%となっております。続きまして10府中市の相談窓口でございます。問37で3つの相談窓口についてお尋ねをしております。対応窓口を知らないという回答が半数を超えた結果となりました。特に、青少年総合相談というところでは、知らないという回答が68.1%に上ったのですが、こちらは冒頭最初にご説明しましたとおり、高齢者の回答が多いので、高齢者向けの窓口は比較的認知度が高く、その逆は低くなっているところかなと考えております。問37の1こちらで、窓口を利用したことがない理由をお尋ねしております。「困りごとがない」という回答が69.4%と最も多く、未利用者のお大半はそもそも相談の必要性を感じていないということが分かりました。最後に11あなた自身のことについていくつか質問をしています。問39で身長と体重をお尋ねしております。そこからBMI算出いたしました。普通体重に属する方が、59.8%となっております。標準な体形の方が多いということが分かりました。一方で肥満に該当する方も22.4%、2割程度いました。問41で学歴をお尋ねしております。13年以上の方が65.4%、10～12年、高校卒業程度という回答が25.7%ということで続いております。最後問45でございますが、「今の暮らし向きはいかがですか」ということをお尋ねしました。「ややゆとりがある」という回答が48.8%で最多ということになりました。駆け足になりましたけれども説明は以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。ただいまの説明いかがでしょうか。これはあくまで中間報告ということで、この後、年度末に向けて、もう少しクロス集計をしたりとか、経年変化をしたりとか、それが基本一番大事だと思います。市として例えば主立った項目の中で本来は何パーセントとか、どのくらいを目指すのかということが分かれば、そこにどこまで到達しているのかというようなことが分かると思います。その辺りは、最終の報告を待つというようなことでよろしいですか。

【事務局】

資料4-1の今まで説明してきたものの後ろに各設問の集計表をつけております。時間の関係でご説明できなかったですが、こちらにクロス集計、それから、1の設問については前回調査との比較ということのをせさせていただきます。こちらをもとに、今後最終的な報告書としてとりまとめていければと思っております。

【委員】

一点、確認ですが、主食とか野菜については世帯年収についてのクロス集計がありますが、健康は世帯年収によって影響するため、この2つだけではなく、他の部分についてもまだ増えると認識してよろしいでしょうか。

【会長】

問の何番になりますでしょうか。

【委員】

問13、問15について野菜とか主食・主菜・副菜などは世帯年収とかクロスをしているのですが、他の部分は無く、健康は、世帯年収が影響すると言われていいますので、この2つだけでなく、これからまだ増えるのでしょうか。

【会長】

事務局いかがでしょうか。世帯年収とのクロスが非常に重要だということだと思います。

【事務局】

現状、世帯年収とのクロス集計をどう進めるかということについては、今まで説明してきた資料の後ろにあります。集計の仕様としては、そちらに丸をつけている設問が集計をしているというところをごさいます。世帯年収については現状は、今ここに載っている設問のみ集計をしているところをごさいます。必要に応じて増やしていくことができればと考えております。

【事務局】

この場でなくても、クロス集計をしたほうが良いような項目のご提案ありましたら事務局までお申し出いただければ検討させていただきたいと思っております。受付の期間についてはまた後日ご案内させていただくということで、よろしいでしょうか。

【会長】

ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。

続きまして、(4) 令和6年度保健計画・食育推進計画 関連事業実施状況調査票（案）について、事務局よりご説明をお願いします。

(4) 令和6年度保健計画・食育推進計画 関連事業実施状況調査票（案）について

【事務局】

令和6年度保健計画・食育推進計画 関連事業実施状況調査票（案）についてご説明いたします。[資料5](#)をご覧ください。

保健計画・食育推進計画に関連する庁内各課の事業について、事業の実施状況を調査するとともに、両計画の進捗状況を調査する目的で、毎年1回実施している調査となります。

今回につきましては、例年通り、前年度の実施状況を調査するとともに、今年度末には令和9年度を開始年度とする次期計画の骨子案を作成することから、現行の第3次計画の評価及び次期計画の策定を見据え、資料5のとおり、調査票（案）を作成しましたので、ご確認をお願いいたします。

本調査票（案）を作成したポイントにつきまして、3点ご説明いたします。

1点目としまして、保健・食育の両計画における基本方針や、目指すべき市民の姿である「具体的取組」、市が実施すべき取組である「主な取組」を示すことで、各事業が計画上どんな位置づけをされているのかを再認識できるようにしております。

2点目としまして、本調査票では各事業の評価という視点だけではなく、1点目でお伝えしました両計画に紐づく基本方針等に対して、各事業がどのように寄与されたか、目的の実現に近づいたかという視点で評価することとしております。

3点目としまして、次期計画策定を見据え、次期計画がより良い方向に進むために、各事業をどのように進めていったら良いのかを検討いただき、それを検討するにあたり、各項目の検討漏れがないよう、①対象者②事業内容③事業の実施方法④事業の資源投入量⑤市民や関係機関との連携⑥その他と、項目を示し、該当する項目があれば、その具体的内

容を記入するものとししました。

内容をご確認いただき、ご承認いただけましたら、こちらの内容にて、調査を進め、次回の協議会において、調査結果をご報告させていただくことを予定しております。

説明は以上です。

【会長】

全体を通してご発言いただいていない委員の皆様にご意見やご感想をいただければと思います。

【委員】

アンケート調査の速報を拝見しました。運動のところでは、アンケートの中で自分が30分以上を運動としているのか、普段通勤で歩いていることも運動とするのかで、「運動してない」と丸をされているのかなと思いました。高齢者の方々は、時間に余裕があるため運動している人が多くなります。若者世代の運動が少ないところをどうやっていけばいいのか考えさせられる結果でした。健康日本21でもじっとしている人が多いとあります。今は座位がすごく多いため、体を少し伸ばすだけでもいい、少し立って足踏みするだけでもいいということを運動指導者は伝えていくのが大事と教育されているところです。高齢者の方には響きやすいですが、若者世代にどう響かせるのがいいのかを悩みます。社会参加につきましても、関心のある方や言われたらやってみる方がいるということについては、そういう方たちを狙って、何かアクションが取れるようにしていけるとよいと思います。おそらく何かやりたいと思っはいるが、そこの一歩が踏み出せていないと思います。そこを行政側で声かけや機会を作ってあげられたらよいと改めて感じました。

【事務局】

昨年度は、周年事業として単年でウォーキングアプリを取り入れてイベントを実施しました。普段行政のイベントに参加されない方にも参加してもらうためにインセンティブを付与する内容で取り組んでまいりました。1 DAY イベントとしてウォーキングイベントの実施も行いました。できれば継続的に運動できるよう、自然に健康になれる環境づくりが行政に求められていることだと思いますので、引き続き自主グループのノルディックでつながる会にご協力いただきながら検討していきたいと思ひます。

【委員】

健康推進は幅が広いと改めて感じました。資料を拝見している中で内容よりも若干気になりましたのが、6月のときの第1回の会議が開かれなかったということで、資料の時系列がそぐわないところがあるということです。6月当初では（仮）となっていたものが、本日の資料となるとすでに11月4・5日は過ぎているので（仮）という表現は正しくないと思ひます。アンケートの報告の有効回答数46.9%は、コツを教えて頂きたいと思うくらい優秀だと思ひました。資料4-1と4-2について、二次元コード・QRコードと標記が統一されていないため、二次元コードと記載を直していただくのがよいと思ひます。4ページの間16のところでも市内の特産品に書かれている大房ぶどう（ふじみのり）ですが、いまだきシャインマスカットと書きたいところ、ふじみのりと書いているところは、食育考えている職員さんなので、よく勉強していると思ひ、感動しました。

【事務局】

資料3の（仮）については、こちらで取り損ねてしまい、申し訳ございません。先週こちらの事業の開催ができたところでしたので、仮ではなく実績としてお伝えするべきところであったと思います。オンライン申請のQRコードについて、市では二次元コードで統一していますので、表現を統一させていただきたいと思います。

4 その他

（1）令和7年度府中市保健計画・食育推進計画推進協議会開催スケジュールについて 【事務局】

本協議会につきましては本日が第1回目となりますが、今後第2回目を2月下旬～3月上旬に開催する予定です。また、後日、議事録作成のために確認をお願いするメールなど送付いたしますので、その際は、ご協力お願いいたします。

（2）府中市地域福祉計画策定連携会議委員の推薦について 【事務局】

府中市では、令和3年度に策定された「府中市地域福祉計画」の計画期間が令和8年度をもって終了することに伴い、令和9年度から令和14年度までの6年間を対象とした次期地域福祉計画の策定が予定されております。

この次期計画では、「府中市福祉のまちづくり推進計画」と一体的に策定されることとなっており、保健・食育・高齢者福祉・障害者福祉・子ども・子育て支援分野といった各分野の個別計画との連携や整合性を図るため、府中市地域福祉計画策定連携会議が新たに設置されることとなりました。

この連携会議は、各分野の協議会等から推薦された委員によって構成され、年2回程度の開催を予定し、次期地域福祉計画の策定に関する検討・協議を行うものです。

つきましては、事前に会長・副会長に事務局よりご相談させていただき、他の計画協議会からの委員推薦の状況等も踏まえたうえで、保健計画・食育推進計画推進協議会からの推薦委員として、当協議会の藤原佳典会長を推薦させていただきたいと存じます。藤原会長からもご了承をいただいておりますので、ここでご報告させていただきます。

【会長】

事務局からの連絡事項についてご質問はございませんか。

その他、各委員からの連絡事項等ございませんか。

【委員】

活発なご意見を伺い、勉強させていただきました。それぞれの事業が活発に進んで行くことを楽しみにしております。

【会長】

これで本日の令和7年度第1回府中市保健計画・食育推進計画推進協議会を終了いたします。長時間にわたり、お疲れ様でございました。

